

第2回学校運営協議会 会議録

令和7年10月9日（木）12時30分～15時30分

- (1) 給食試食会
- (2) 授業参観
- (3) 意見交換及び助言（多目的室）
 - ① 開会のことば（教頭）

② 校長あいさつ

授業参観では、秋の季節の学習や甲養祭の取り組みを行っている様子も見てもらった。小学部6年生は本日から修学旅行に出かけており、高等部は現場実習中である。新型コロナやインフルエンザも落ち着いて、従来のいろいろな対応の制限も緩和して見直しを行っている。無理のない範囲で対応していく。

「地域に開かれた学校」を目指し、学校運営方針や取り組みなど周知していきたい。本校は2学期制で10月から後期が開始された。前期は円滑に教育活動が行われた。今回、皆様に事前にペーパーをお配りさせていただいたが、意見をいただきたい。いじめ防止に関して、皆様には「すこやか拡大委員会」の委員になっていただいていますので、出席をお願いしたい。

③ 拡大すこやか委員会（いじめ対策委員会）

R7年度：単一コースだけでなく、知的コースを対象として増やしてアンケート実施した。より多くの児童生徒の声を聞き取ることができるようにした。

④ 意見交換及び助言

- ・他の支援学校より1対1の対応が多いように思える。介護度も高く、先生たちの心と体を維持するのも大変と感じた。命と隣り合わせでいつもプレッシャーを抱えていて、どのようにメンタルヘルスを考えているのかを聞きたい。

- ・給食は作り手の気持ちがこもっている。食べることも教育の一つであり、大切にしていってほしい。

- ・いろいろ参観できて勉強になった。給食時に1対1でずっと食べさせていて、先生たちの大変さを感じた。休憩時間は取れているのか。次の仕事につなげるために、休むこと、息をつくことは大切。授業参観では、子供が生き生きと学び、先生が熱心に教える姿が見られた。

- ・先生が子供としっかりかかわっていることが分かった。現在、高等部が現場実習中ということだが、うちに実習にきている生徒も挨拶や言葉遣いなど学んできていることが分かる。実際に社会に出て、どんなことを学んできたのかが見えてくる。就労に向けて手厚く指導を受けてほしい。

- ・県内でも形態食に取り組んだ先駆者である学校であり、しっかり行われていることが分かる。授業参観で感じたことは、3年前と比べ、授業の雰囲気が変わってきた。以前はずっと子供の反応が出るまで待つ姿もあり、反応をより見ていけるとよいと思った。

メンタルヘルス、休憩時間について

→教員は、子供の実態をしっかり把握するために、研修を受ける機会を設けて、より児童生徒を知ることができるようにしている。重い障害の子を見るには、先生たちの重圧はあるが、子供と

かわり、子供が変わると喜びになる。一人で抱え込まないよう、チームで対応するようにしている。

→外部対応や保護者対応に困難さを感じていることが多い。メンタルヘルス、健康チェックを行っているが、随時気を付けていく必要がある。休憩に関しては、子供のいる時間は難しく、できる限りその他で休憩時間を設定しているが、それぞれの事情で取れないこともある。

→会議を全体で行うのではなく、自分で選択して参加できるようにしていきたい。例えば、職員会議ではリモートで行っているのを書面開催とし、掲示板を設けて、いつでも自分の都合で参加できるようにしたい。

R 8 年度の教育課程編制について

→学習指導要領を基準として、考えていく。医療的ケアがあるから自立主体ではなく、どの子どもも教科学習を視点に考えていく。

医療的ケアについて

・医療的ケアの子が通学できることを選択できるようにしてほしい。県外からの報告であるが、スクールバスにらせてほしいが、人口呼吸器を装着しているため乗せられないと学校で言われ、通学ができないということがあることも知ってほしい。

→本校は医療的ケア児（通学生）25名が在籍している。訪問学級在籍は16名だが、14名が甲府病院に入院しており、2名は在宅。学校看護師は、必要最低限の最短の時間での雇用となっており、スクールバスに添乗してもらうには、人、金がないとできない。今後、県に意見を挙げて協議していきたい。

地域と防災について

・池田地区を地域としてどう支援していくか。要支援者名簿というのがある。子供たちがどのように要支援となっているのか確認することも必要。周囲の道路状況などで帰ることができないことも想定する。地域と意見交換して、地域共助していく。高齢者、子供、医療を要するなど必要とする支援が異なるが、何を要望するかを確認しておくとい。県立大学の学生に協力を仰ぐこともできるので、一度地域の会合の席を設けていきたい。

→地域の会合に参加させてほしい。学校は県立なのでうまく垣根を越えながらできるとよい。

進路・現場実習

・どこの支援学校も、先輩の進路先や情報の中で実習先を決めている傾向があり、偏りがち。今まで以上に学校で「働くということ」「どんなことをしたい」「何ができる」など学んでほしい。「仕事ってどういうこと？」という講義をすることもあるので、外部の人材も活用してほしい。

・生活介護はまだ選べない状況。保護者が情報を知らないことが多い。いつでも見学可能で、説明もできる。もっと進路の選び方、考え方を工夫してほしい。

・ずっと小学部から事業所見学は行ってきたが、仕組みが分からなかった。ようやく少しずつシステムが分かってきたが、進路相談で「分からないことがあれば、いつでも聞いてください。」といわれるが、「分からないことが分からない」情報がたくさんほしい。

→学校で進路説明会の際は、ぜひ講師をお願いしたい。

・肢体不自由、病弱の子の卒業後の生活の場として、独り立ちすることをどう考えていくか。

・医療的ケア児の保護者から「医療的ケア児が入れるグループホームを作してほしい」と言われたが、ハード面など難しいのが現状。

・甲府支援の受け皿をつくったが、介護度の高い肢体不自由の人だけを受け入れるのはむずかしく、居宅介護事業を組み合わせで一人暮らしをするなどの方法を取ったケースも 2 例あるが、居宅介護の賃金が低くなったため、難しい状況。

→18 歳～20 歳の穴をどう埋めていくのが課題である。

今後、また課題を整理していく。

⑤ 閉会のことば（事務長）